

全国町村議会広報研修会報告

「議会だより」は、住民との コミュニケーション手段の一つ

議会広報特別委員会 委員長 益子 明美

8月25、26日の2日間、東京都で開催されました全国町村議会議長会主催の第72回町村議会広報研修会に参加しました。

会場には、全国各地から

500名を超える町村の議員や事務局職員が集結し、「議会だより」編集にかけ熱意であふれ、初めて参加した我々は改めて「議会だより」を編集する意義の大きさに気付かされました。

第1日目は、わかりやすい文章表現や表記、広報紙の役割、自治体ホームページの活用方法を講義形式で受講しました。

印象的だったのは、広報紙は住民とのコミュニケーションの一つだということと、「議会だより」をわかりやすく編集する事は、議会をより身近に感じることができると同時に、議会の役割をきちんとしていく事だ

ということでした。

第2日目は、具体的に、どこを改善すると、よりわかりやすい広報紙になるかというクリニック（診断）を受けました。

私たちが、まず反省すべき点は、編集作業の大部分を事務局に任せてしまっている事でしょう。広報委員全体のレベルアップに努めなければならぬと感じました。

クリニックでの総評は、「盛りだくさんの印象があり、レイアウトを工夫する必要性がある事。」
「見出しは重要なので、つけ方の工夫をすべきだという事。」

「住民参加の企画を取り入れ、住民とともに進む議会広報を目指すべき事。」
など、評していただきました。

住民参加ということでは、

以前から広報紙にモニター意見を取り入れたり、今回から表紙の写真を公募したりと徐々に取り入れてきています。

また、一般質問のスペースが十分確保されている事は「よし」とされていますが、質問の見出しがあるのに答弁の見出しがないとの指摘をされましたので、早速、今回から、大見出しに答弁の見出しを加えることとしました。

少しずつではありますが、より身近で、わかりやすい『議会だより』を目指し、改善点を克服していきたいと思えます。

住民の皆様からは、ぜひモニターをお願いした方の意見だけでなく、たくさんの方から広報紙に関するご意見、議会に対するご意見・ご要望などをいただきたいと思います。

今回の議会広報研修会では、他町村の議会広報紙にも多数触れ、大いに刺激を受けましたので、これからも、こういった研修に参加し、広報技術の向上に役立てていきたいと考えています。



広報のあり方を考えることのできた広報研修

議員全員で近隣の 消防署を視察

南那須地区広域行政事務組合の消防組織が平成25年10月を目前に、現在の4分署体制から2署体制（那須烏山消防署・那珂川消防署）に再編整備されることから、消防署の規模及び設備等を研究するため、3常任委員会合同で、近隣消防署（矢板市・那須町）の施設状況などを視察調査しました。



消防署員から説明を受ける



新しい消防施設を見学